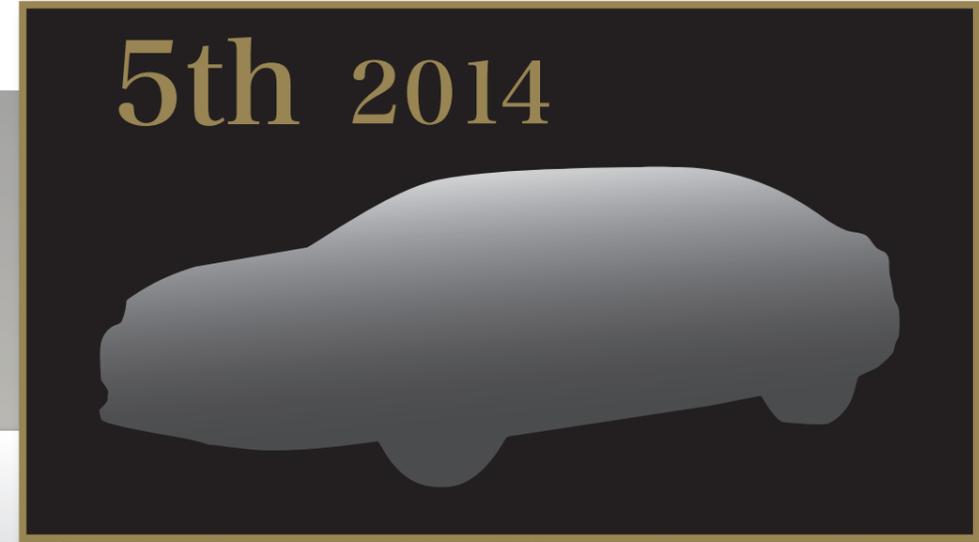


# 挑戦の軌跡

Hondaが初代レジェンドの開発をスタートしたのは1982年、自動車メーカーの仲間入りをしてから、わずか15年後のことでした。世界を対象に、それまでのHondaにはなかった高級車の分野を切り拓くため、「クルマの価値とはなにか」、そして、「人間にどれほどの喜びと満足を与えうるか」といった、哲学的とも言えるアプローチから企画に取り組みました。技術を論じる前に人間を深く研究することから新しい高級車像を導いたのです。歴代レジェンドは、そうした開発思想を受け継ぎながら、時代に即した最高の価値を提案してきました。エアバッグシステムやTCS(トラクション・コントロール・システム)など、いまでは当たり前となった技術を時代に先駆けて搭載してきたのも、人間の喜びを真摯に追い求めてきた結果です。New レジェンドは、人間研究と30年以上におよぶ高級車開発のノウハウを基本に、Hondaの最先端技術と情熱を結集してつくりあげた、セダンの新たな理想形です。



4th  
2004



世界初の四輪駆動力自在制御システム「SH-AWD」により、駆動力で曲がるというアイデアを具現化。操る喜びと満足感を高い次元で融合させ、高級車の新しい方向性を提示しました。

3rd  
1996



「期待と体感の一致」を技術コンセプトに、人間が感じる「気持ちよさ」を徹底追求。「ヒューマン・リアリティ」の実現に向け、すべてのメカニズムに完璧なまでの熟成と洗練を求め、ラグジュアリーカーとしての豊かさ、高い質感、品位の具現化に取り組みました。

2nd  
1990



走りの基本性能を高めるとともに、「社会とクルマの融合」をクルマづくりの重要課題と位置づけ、世界トップレベルの安全性能を追求。高度情報化時代に対応した多機能ナビゲーションシステムを採用するなど、高級ドライバーズカーの新しい姿を提示しました。

1st  
1985



Hondaラインアップの最頂点を自負しうるクルマを誕生させるという目的のもと、それまでに培ってきたすべてのテクノロジーを投入して開発。世界トップレベルの静粛性をはじめ、性能・機能のすべてを人間の感性に訴えるレベルにまで引き上げることで、高級車の新しい基準に挑みました。